

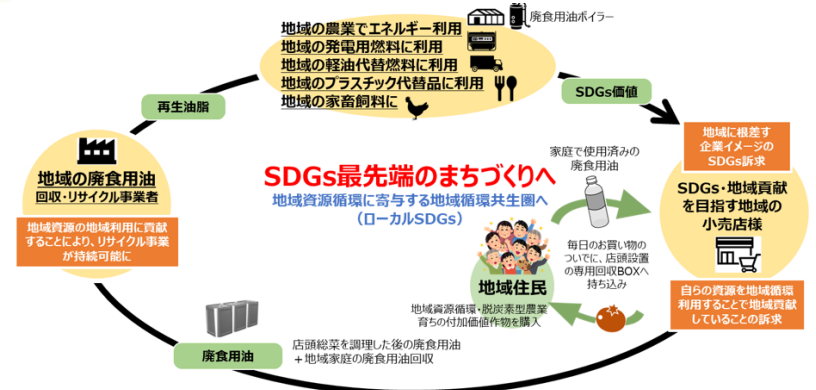
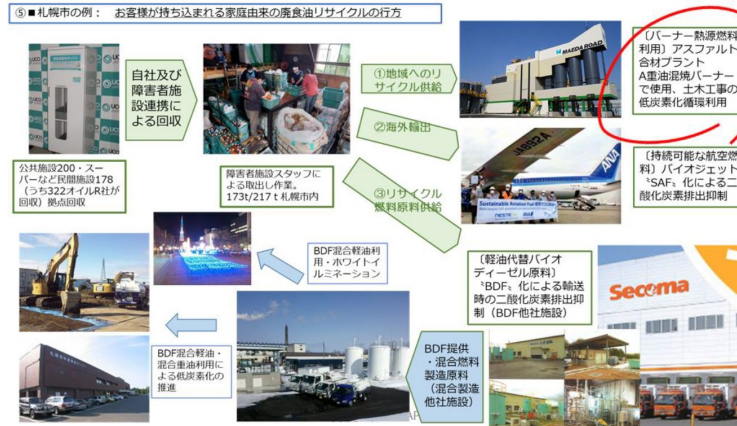
<p>事業概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アスファルトプラントの設計・製作 ●リサイクルプラントの設計・製作 ●合材サイロの設計・製作 ●エコロジカルプラントの設計・製作
<p>部署</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●経営企画室 GX推進室 ●SDGs推進室
<p>所在地</p>	<p>〒841-0201 佐賀県三養基郡基山町小倉629-7</p>
<p>連絡先</p>	<p>(電話番号)0942-42-3121 (E-mail) 経営企画室 室長 陣内:f-jinnouchi@tanaka-iron-works.com SDGs推進室 室長 伊東:k-itou@tanaka-iron-works.com</p>
<p>環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像</p>	<p>当社のサステナビリティ方針は下記3点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地球環境の保全、カーボンニュートラルの達成に貢献する ✓ 省エネ・リサイクル推進を通じて、循環型社会の発展に貢献する ✓ 従業員が働きやすい環境を追求し、お客様の働き方改革にも貢献する <p>⇒ 特に現状最優先経営戦略としてすすめている「UCO(廃食油)の熱源転換による事業スキーム」の確立に向けて、下記の図のような未来を、環境省ローカルSDGsを通じて実現したいと思います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="472 868 1100 1300" style="width: 45%;"> </div> <div data-bbox="1120 882 1893 1290" style="width: 45%;"> <p>田中鉄工が提唱する UCO (廃食油) の熱源転換による事業スキームの目的</p> <p>“CO2フリー&地産地消エネルギー UCO” で カーボンニュートラル&循環型社会 (ローカルSDGs) を実現!</p> <p>誰もが利用する 自分たちの街の 道路や歩道に還元</p> <p>SDGs最先端の まちづくりへ</p> </div> </div>

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション

分野 脱炭素／その他(循環型社会)

「UCO(廃食油)の熱源転換による事業スキーム」

道路建材であるアスファルト合材精製時に使用するバーナ燃焼時の燃料に、CO2フリー&地産地消エネルギーである「廃食油」を利用し、その地域の誰もが利用する道路や歩道の建材燃料に転換することで、地域資源循環に寄与する地域循環共生圏(ローカルSDGs)を実現する。



URL 【URL: <https://saga-sdgs.jimdofree.com/>】
佐賀SDGs官民連携円卓フォーラムのHPです。
HP内のフォーラムについて ⇒ SDGsパートナーズ(法人・団体)内に弊社取材ページが掲載されています。

上記ソリューションを提供できる地域について

全国

自者の特徴

- ✓ 全国各都道府県のアスファルト合材協会に加盟している道路舗装会社へ、委員会内の場で、弊社のSDGs戦略を共有し、意見交換を実施。
- ✓ UCO(廃食油)の熱源転換による事業スキームの確立に向けて、全国の油脂会社 及び全国唯一の廃食油専門油脂業界団体全国油脂事業協同組合連合会(UCO JAPAN)と2023年3月15日に包括連携協定を締結(右記、日刊建設工業新聞 記事)
- ✓ 家庭系UCO(廃食油)の再利用促進に向けて、スーパーマーケット各社、及びスーパーマーケット協会へ回収BOX設置の提案を開始。
- ✓ 各地域のSDGsプラットフォームに加盟、訪問し、意見交換を実施
- * 加盟済団体…九州SDGs経営推進フォーラム・北九州SDGsクラブ、佐賀SDGs官民連携円卓フォーラム、おきなわSDGsプラットフォーム

SDGs経営に向けた自者の課題や悩み

SDGsはその課題の広さ・深さ・関わり方等すべてが大きく・複雑な構造に課題が昇華しているため、弊社だけでは到底太刀打ちできない。視点・視座・視野を広げ、インプット&アウトプット(オープンイノベーション)を多方面に向けて実施していますが、これまで対峙できていないステークホルダーが多々存在するため共創までのスピード感に課題を感じています。

田中鉄工ら3者/廃食用油有効活用で包括連携協定/カーボンハーフ実現目指す

2023-03-17 11時 政策活動



包括連携協定調



協定書に署名した(左から)原田理事長、古賀社長、高橋会長

田中鉄工(佐賀県基山町、古賀武志社長)と全国油脂事業協同組合連合会(高橋康寿会長)、九州フードリサイクル事業協同組合(原田典元理事長)は、天ぷら油など家庭用の廃食用油のアスファルトプラントでの有効活用に向けた包括連携協定を15日に福岡市内で締結した。バーナー燃焼用の燃料に廃食用油燃料を混合することで燃焼時の二酸化炭素(CO2)排出量を削減。2030年までに全国のプラントのCO2排出量を半分にするカーボンハーフの実現を目指す。

プラントで骨材の乾燥加熱に使用するバーナー燃焼用の燃料の混合比率を重油6割、廃食用油4割とすることで、燃焼時のCO2排出量を約34%を削減できる。廃食用油燃料を保管する施設と重油と混合するための配管が必要だが、比較的簡単に設置できるという。

廃食用油は家庭で使用されたものを回収する予定。現在全国で回収される量はほぼ回収されておらず推定で年間約10万トンが廃棄されているとされる。廃食用油の回収と精製は全国油脂事業協同組合連合会と九州フードリサイクル事業協同組合が行う。

田中鉄工によると、アスファルトプラントは全国に920基あり、各地域で回収した油をプラントで使用することで、地産地消でローカルSDGs(持続可能な開発目標)にも貢献できるという。